

2017年3月期 第2四半期 決算説明資料

人々の暮らしと流通企業のビジネス活動を
情報システム技術で融合し、
豊かな社会の実現に貢献します。



株式会社ヴィンクス
2016年 11月 29日

証券コード：3784

目次

1. 2017年3月期 第2四半期 決算概要 および通期業績予想

- 決算ハイライト . . . P4
- 分野別状況 . . . P6

2. 基本戦略と直近のトピックス

- 基本戦略 . . . P12
- 営業戦略における主なトピックス . . . P18
- 研究開発活動および製品投資の状況 . . . P19

3. B/SおよびC/F

- 財政状況（前期末比較） . . . P21
- キャッシュ・フローの状況 . . . P22

1. 2017年3月期 第2四半期の 決算概要 および通期業績予想

<2016年上期総括>

<売上高>

既存顧客への更なる深耕を図ってきたものの、経営環境の変化に伴う顧客のシステム投資の計画変更、受注までの期間が長期化した影響などにより計画および前年同期を下回る結果となりました。

<営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益>

営業利益は次世代製品開発への積極投資、新規事業に関する市場調査等研究開発が増加したものの、要員の効率化・管理費削減を行い、計画を上回りましたが、前年同期と比較して下回る結果となりました。

単位：百万円、%、百万円未満切捨て

科目名	2016年上期 実績		計画対比				前年同期比			
	実績値	売上比	計画値	計画比	計画差	売上比	前年値	前年比	前年差	売上比
売上高	12,852	—	13,664	94.1%	▲811	—	13,895	92.5%	▲1,042	—
売上総利益	2,582	20.1%	2,621	98.5%	▲38	19.2%	2,719	95.0%	▲136	19.6%
販売管理費	1,885	14.7%	2,038	92.5%	▲152	14.9%	1,913	98.5%	▲27	13.8%
営業利益	697	5.4%	583	119.6%	114	4.3%	806	86.5%	▲108	5.8%
経常利益	661	5.1%	547	120.9%	114	4.0%	752	87.8%	▲91	5.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	426	3.3%	357	119.5%	69	2.6%	486	87.7%	▲59	3.5%

<連結業績予想などの将来予測情報に関する説明>

2016年5月10日付で公表いたしました2017年3月期通期業績予想値に変更はなく、売上高280億円、営業利益13億円、経常利益12億10百万円、親会社株主に帰属する当期純利益7億96百万円を見込んでおります。

注) 業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確実な要素を含んでおります。
実際の業績等は、業況の変化等により予想値と異なる結果となる場合があります。

<配当方針、配当見通し>

当社は、株主様への利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、配当金につきましては、企業価値の向上とその水準の維持を可能とする範囲において、事業拡大のための内部留保を勘案しながら決定することを基本方針としております。内部留保資金につきましては、今後予想される事業規模拡大のため新規事業および新製品の開発に対し有効に投資してまいります。
(単位：円、1株あたり)

	中間配当金	期末配当金	年間配当金合計	配当性向(連結)
2016/3期	10	10	20	22.0%
2017/3期	10			
2017/3期 (予想)		10	20	22.3%

アウトソーシング分野

（システム運用・管理サービス、ソフトウェア保守サービス、ヘルプデスクサービス、ASPサービス 等）

売上高および営業利益とも

大型運用受託契約の満了等の影響により、前年値を下回りましたが、
特定顧客のITフルアウトソーシング案件等の拡大により、計画値を上回りました。

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

科目名	2016年上期		計画対比			前年同期比		
	実績値	比率 ※	計画値	計画比	計画差	前年値	前年比	前年差
売上高	6,463	50.3%	6,126	105.5%	337	6,609	97.8%	▲ 145
売上総利益	1,385	21.4%	1,252	110.6%	133	1,326	104.4%	58
営業利益	395	6.1%	278	142.1%	117	401	98.5%	▲ 5

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益および営業利益は利益率を表示しております。

ソリューション分野

（流通・サービス業向け基幹システム、クレジットカードシステム、ネットビジネス 等）

経営環境の変化に伴う顧客のシステム投資の計画変更、
受注までの期間が長期化した影響などにより、計画値および前年値を下回りました。

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

科目名	2016年上期		計画対比			前年同期比		
	実績値	比率 ※	計画値	計画比	計画差	前年値	前年比	前年差
売上高	3,417	26.6%	4,804	71.1%	▲1,386	4,347	78.6%	▲ 929
売上総利益	937	27.4%	1,129	83.0%	▲192	1,053	89.0%	▲ 115
営業利益	250	7.3%	251	99.5%	▲1	306	81.6%	▲ 56

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益および営業利益は利益率を表示しております。

プロダクト分野

（オープンPOSパッケージ、クラウド型タブレットPOSパッケージ、CRMパッケージ、MD基幹システム、次世代統合運用 等）

プロダクトの拡販が進まず、売上高は計画値および前年値を下回りました。
また次年度に向けた新商品の研究開発投資の影響で利益は前年値を下回りました。

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

科目名	2016年上期		計画対比			前年同期比		
	実績値	比率 ※	計画値	計画比	計画差	前年値	前年比	前年差
売上高	556	4.3%	798	69.7%	▲241	632	88.0%	▲76
売上総利益	118	21.2%	161	73.0%	▲43	222	53.0%	▲104
営業利益	13	2.5%	36	38.5%	▲22	60	23.1%	▲46

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益および営業利益は利益率を表示しております。

その他 I T 関連分野

（ハードウェア販売、店舗システム導入展開サービス 等）

物販（POSシステム機器等）の拡販により、
売上高ならびに利益は、計画値および前年値を上回りました。

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

科目名	2016年上期		計画対比			前年同期比		
	実績値	比率 ※	計画値	計画比	計画差	前年値	前年比	前年差
売上高	2,414	18.8%	1,936	124.7%	478	2,305	104.7%	108
売上総利益	141	5.9%	76	184.2%	64	116	121.1%	24
営業利益	37	1.6%	17	220.9%	20	37	99.9%	-

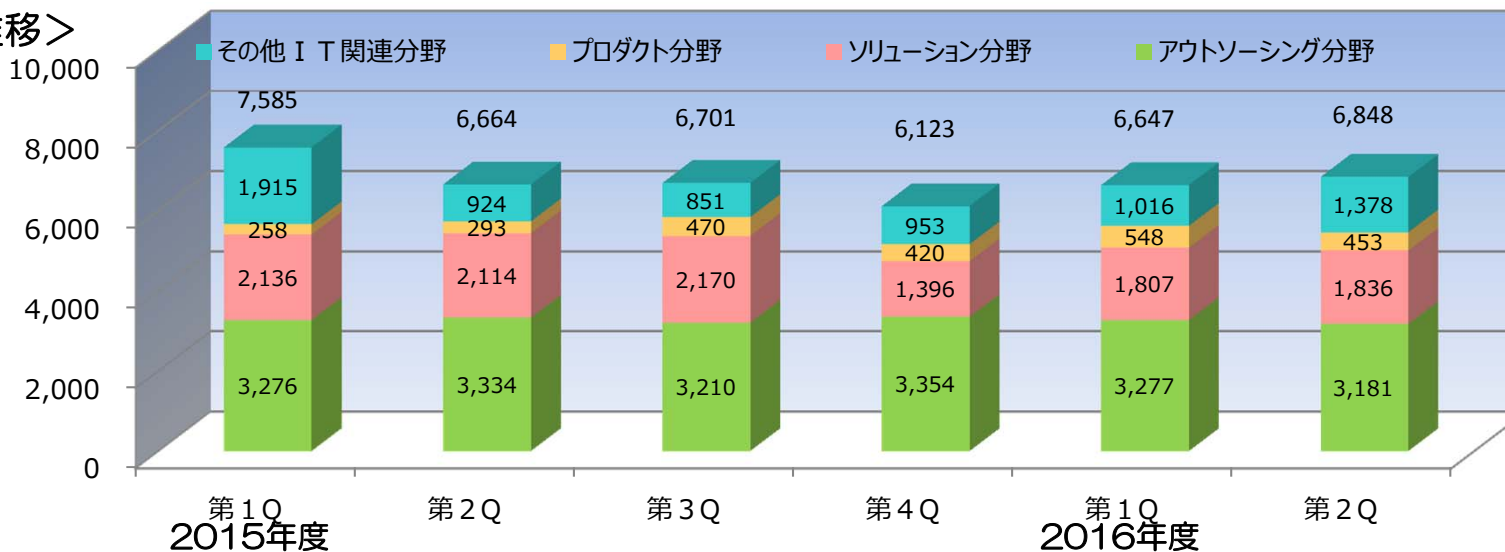
※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益および営業利益は利益率を表示しております。

分野別状況（分野別の受注高・受注残高の推移）



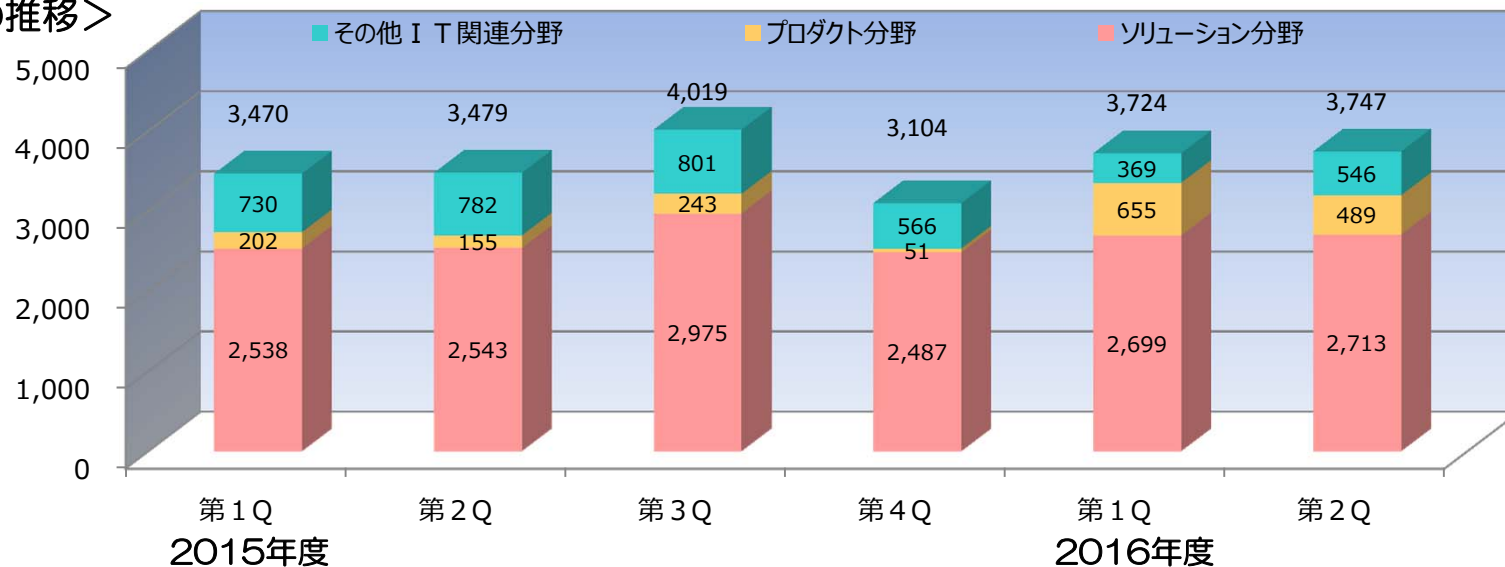
＜受注高の推移＞

（単位：百万円）



＜受注残高の推移＞

（単位：百万円）



注記：アウトソーシング分野につきましては、受注生産型の事業形態ではないため「受注残高」の記載を省略しております。

2. 基本戦略と直近のトピックス

基本戦略

当社グループは、中期経営計画に基づいて、国内事業の拡大とグローバル展開を加速し、事業の継続的な成長に努めてまいります。

事業成長と安定的な収益基盤確立の両立

売上高の拡大

利益率の向上

戦略1 商品・サービスの差別化戦略

- 大手顧客への導入・拡大
- 事業分野の拡大
- クラウド化によるラインナップの拡大
- グローバル商材の充実

戦略2 グローバル戦略

- 日系進出企業の獲得
- 現地小売業の案件獲得
- グローバル営業体制の強化
- 海外拠点の拡大

戦略3 特定顧客化戦略

- ITフルアウトソーシングを目指した大手小売業の獲得
- プロダクトを起点とした顧客の獲得と新たな特定顧客化

戦略4 経営基盤の強化

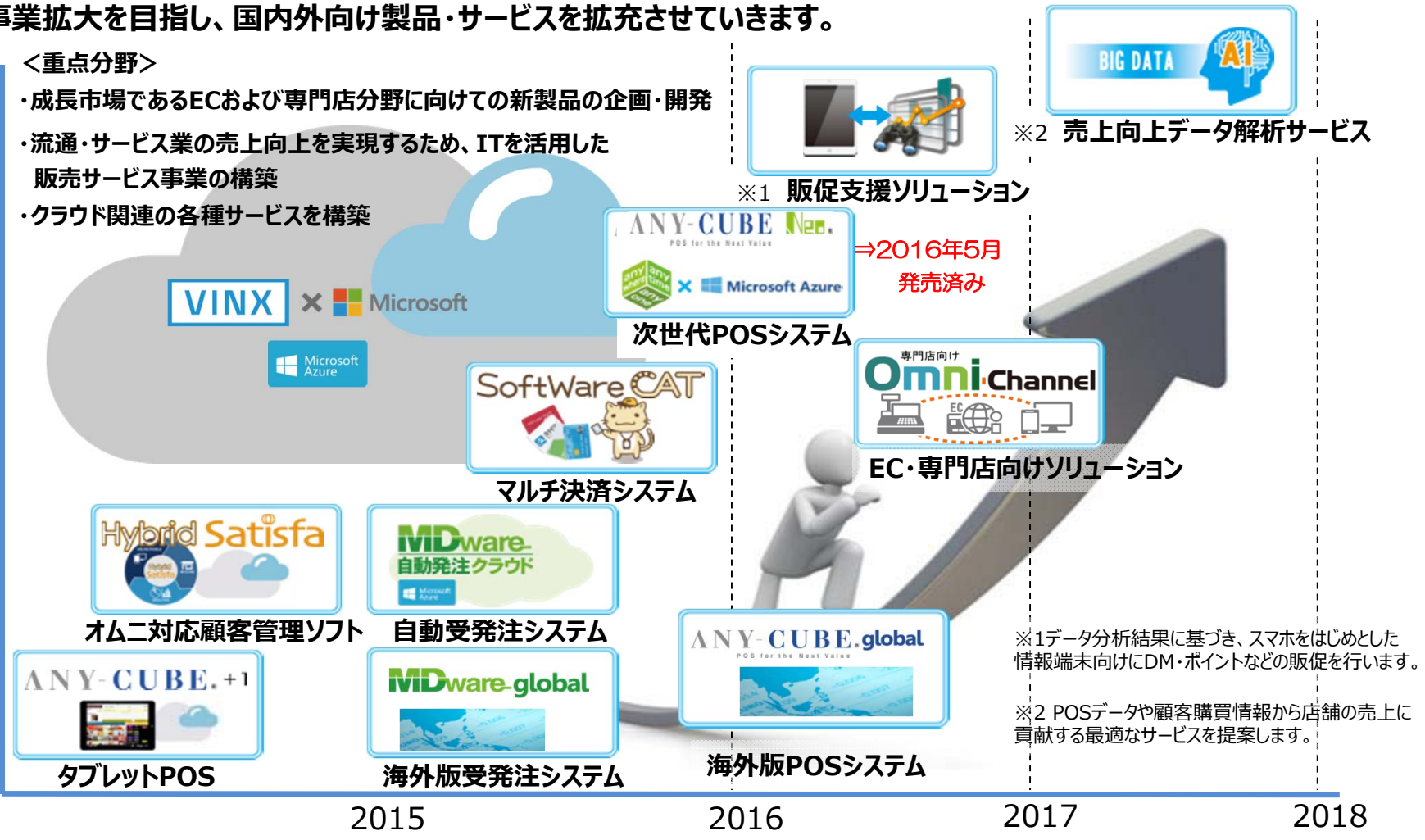
- 業務プロセス等の見直しによる業務の効率化推進
- プロジェクトおよび品質管理の強化
- 継続的な事業成長を実現するための事業基盤強化

戦略1 商品・サービスの差別化戦略

事業拡大を目指し、国内外向け製品・サービスを拡充させていきます。

<重点分野>

- ・成長市場であるECおよび専門店分野に向けての新製品の企画・開発
- ・流通・サービス業の売上向上を実現するため、ITを活用した販売サービス事業の構築
- ・クラウド関連の各種サービスを構築



※1データ分析結果に基づき、スマホをはじめとした情報端末向けにDM・ポイントなどの販促を行います。

※2 POSデータや顧客購買情報から店舗の売上に貢献する最適なサービスを提案します。

基本戦略

戦略1 商品・サービスの差別化戦略

■ 営業活動における主なトピックス

<2016年上期>

● 専門店向け POSシステム

全国に展開する大手総合衣料専門店様より
POSアプリケーション案件の受注を獲得いたしました。

● ドラッグストア向け MD基幹システム

中国および四国地方を中心に展開する中堅ドラッグストア様にて
本番稼動することが出来ました。

～ 新商品の発売 ～

2016年5月26日 最新型クラウドPOSシステム
『ANY-CUBE Neo』を発売

次世代POSソリューション

ANY-CUBE Neo
POS for the Next Value

Microsoft AzureをPOSセンターサーバに採用し、
クラウド対応はもとより小売業様の競争力向上を目指し、
POSアプリケーション『ANY-CUBE』に新たな差別化機能を搭載しました。

戦略2 グローバル戦略

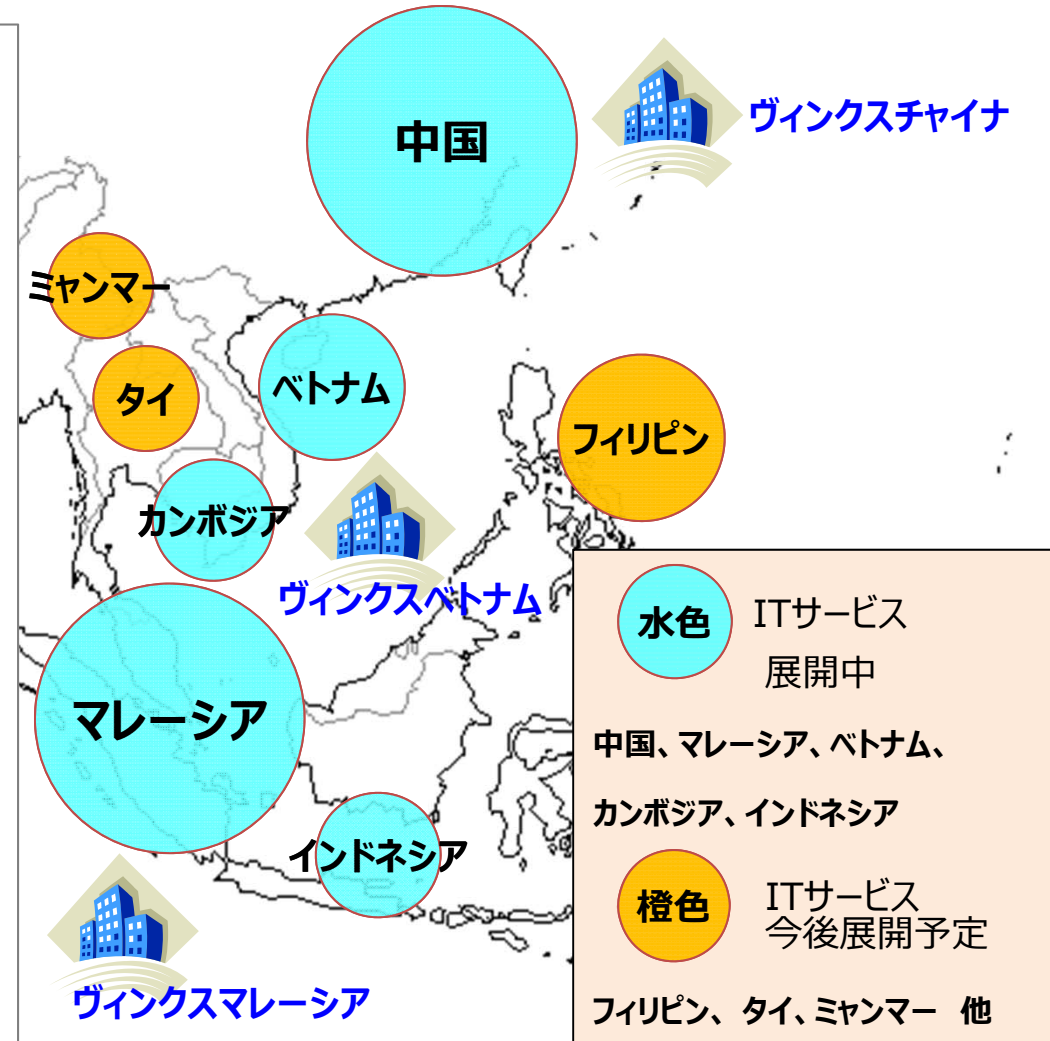
営業活動における主なトピックス 〈2016年上期〉

● ITアウトソーシングサービス

大手総合小売業のマレーシア法人様より
保守・運用業務まで含めた
ITフルアウトソーシング案件の
受注を獲得し、サービス提供を
開始いたしました。

● POS定額利用料サービス

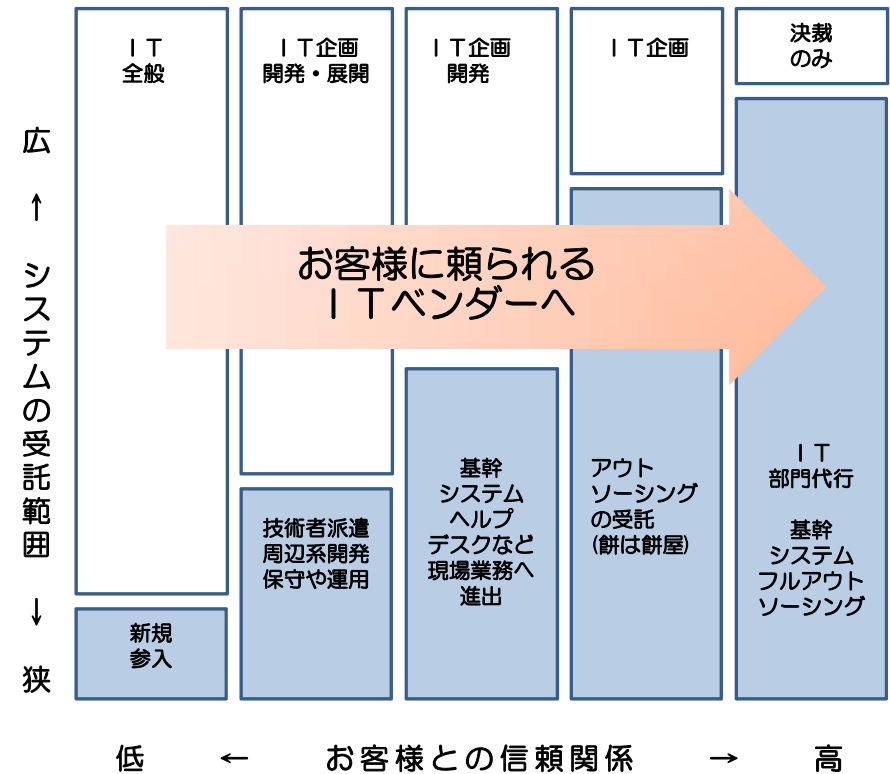
アセアン地域に進出している
日本の流通・サービス業向けに、
POS関連機器の調達・設置等の
初期投資および運用費用の抑制が可能な
POSレジおよびPCを定額で利用できる
「POS定額利用料サービス」の提供を
開始いたしました。



戦略3 特定顧客化戦略

■ 営業活動における主なトピックス ＜2016年上期＞

- スーパー向け POSシステム
中国および四国地方を中心に展開する
大手スーパー様より
前期受注したMD基幹システムに加えて
新規POS案件の受注を獲得いたしました。
- スーパー向け POSシステム機器のリプレイス
関東地方を中心に展開する
大手スーパー様より
POSシステム機器のリプレイス案件の
受注を獲得いたしました。



戦略4 経営基盤の強化

- 当社グループにおけるシステム開発の生産性向上を図るべく、中国およびベトナムでのオフショア開発や、経営管理体制とプロジェクト管理体制を確立するために必要な各種施策を実施してまいりました。
- プロジェクトマネージャーの育成に注力し、各プロジェクトにおける運用・品質管理を強化するためにPMOを中心として、品質を保持しながら計画的且つ効率的にプロジェクトを遂行することに取り組んでまいりました。

～ 東京証券取引所 市場第二部への市場変更 ～

2016年5月27日 当社は東京証券取引所市場第二部へ市場変更いたしました。

これもひとえに、株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先様など、多くの関係者の皆様の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

当社グループは、「人々のくらしと流通企業のビジネス活動を情報システム技術で融合し、豊かな社会の実現に貢献します。」という経営理念のもと、今後も皆様のご期待にお応えできますよう、更なる業容の拡大と企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

営業活動における主なトピックス

商品・サービスの差別化戦略

専門店

- POSシステム
全国に展開する大手総合衣料専門店様よりPOSアプリケーション案件の受注を獲得いたしました。

ドラッグストア

- MD基幹システム
中国および四国地方を中心に展開する中堅ドラッグストア様にて本番稼動することが出来ました。

グローバル戦略

スーパー(海外)

- ITアウトソーシングサービス
大手総合小売業のマレーシア法人様より保守・運用業務まで含めたITフルアウトソーシング案件の受注を獲得し、サービス提供を開始いたしました。

流通・サービス(海外)

- POS定額利用料サービス
アセアン地域に進出している日本の流通・サービス業向けに、POS関連機器の調達・設置等の初期投資および運用費用の抑制が可能なPOSレジおよびPCを定額で利用できる「POS定額利用料サービス」の提供を開始いたしました。

特定顧客化戦略

スーパー

- POSシステム
中国および四国地方を中心に展開する大手スーパー様より前期受注したMD基幹システムに加えて新規POS案件の受注を獲得いたしました。

スーパー

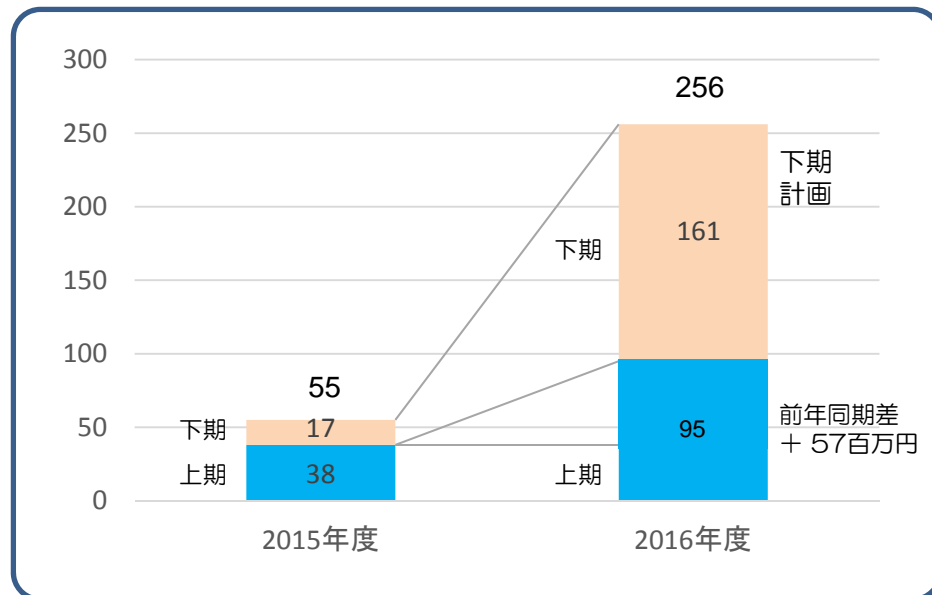
- POSシステム機器のリプレイス
関東地方を中心に展開する大手スーパー様よりPOSシステム機器のリプレイス案件の受注を獲得いたしました。

研究開発活動および製品投資の状況



研究開発活動

単位：百万円



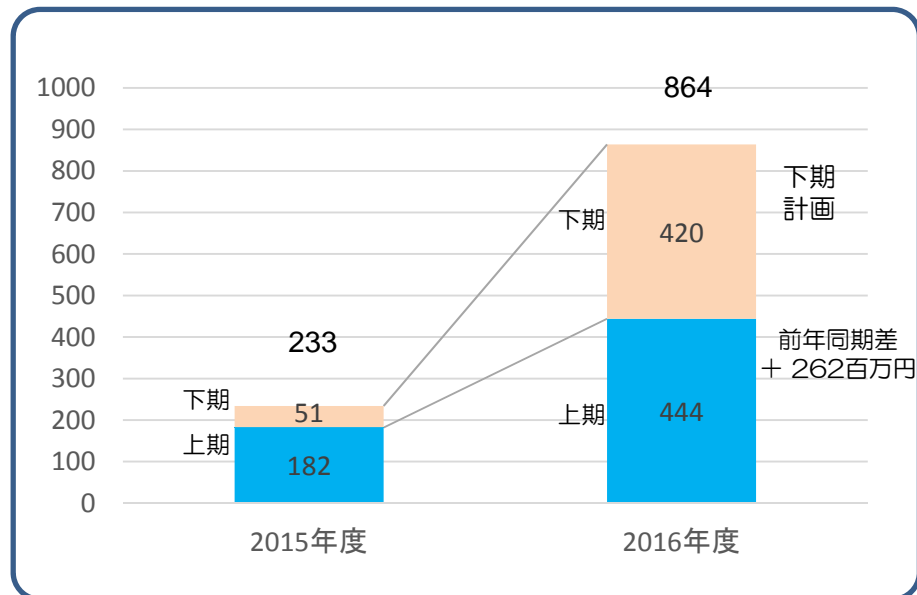
<2016年上期 主な研究開発活動の明細>

区分	No	概要
研究開発活動	1	専門店向けオムニチャンネル & 基幹システムの研究開発
	2	スーパーマーケット版『ANY-CUBE Neo』の研究開発
	3	『SoftWareCAT』の研究開発
	4	ロボットPOS 標準インターフェイスの研究開発
	5	顧客の売上向上に繋がるソリューション研究開発
	6	グローバル事業推進のための調査

計 95百万円

製品投資

単位：百万円



<2016年上期 主な製品投資の明細>

区分	No	概要
製品投資	1	海外向け MD基幹システム開発
	2	大手総合小売業グループ向け MD基幹システム開発
	3	『ANY-CUBE Neo』に関する追加開発
	4	『SoftWareCAT』のインバウンド向け決裁機能追加

計 444百万円

3. B/SおよびC/F

財政状況（前期末比較）



<貸借対照表>

単位：百万円、%、百万円未満切捨て

区分	2017年3月期 第2四半期末		2016年 3月期末	差額
		構成比 (%)		
流動資産	12,198	78.6	12,687	▲ 489
固定資産	3,315	21.4	3,268	47
<有形固定資産>	1,338	8.6	1,299	39
<無形固定資産>	848	5.5	835	12
<投資その他の資産>	1,128	7.3	1,133	▲ 4
資産合計	15,514	100.0	15,956	▲442
流動負債	5,091	32.8	4,877	214
固定負債	3,433	22.1	4,015	▲581
負債合計	8,525	55.0	8,892	▲367
純資産	6,989	45.0	7,064	▲75
負債・純資産 合計	15,514	100.0	15,956	▲442

<貸借対照表のポイント>

第2四半期連結会計期間末の貸借対照表については、以下の通りとなりました。

①総資産

155億14百万円 4億42百万円減
(主な要因)

- ・現金及び預金 16億76百万円増
- ・受取手形及び売掛金 1億99百万円減
- ・短期貸付金 19億34百万円減

②負債総額

85億25百万円 3億67百万円減
(主な要因)

- ・未払法人税等 2億14百万円増
- ・長期借入金 5億95百万円減

③純資産

69億89百万円 75百万円減
(主な要因)

- ・利益剰余金 3億38百万円増
- ・為替換算調整勘定 63百万円減
- ・非支配株主持分 3億31百万円減

キャッシュ・フローの状況

単位：百万円、百万円未満切捨て

税金等調整前四半期純利益	656
減価償却費	487
その他	188
小計	1,333
利息、法人税等の支払額等	▲33
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,299
固定資産の取得による支出	▲548
貸付による支出	▲225
貸付金の回収による収入	2,160
その他	55
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,442
長期借入金の返済による支出	▲457
配当金の支払額	▲88
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	▲270
その他	▲54
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲870
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲195
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,676
現金及び現金同等物の期首残高	4,850
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	0
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,526

＜キャッシュ・フロー計算書のポイント＞

第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は65億26百万円となり、詳細は以下の通りです。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、12億99百万円増加しました。

＜主な要因＞

- ・税金等調整前四半期純利益 6億56百万円
- ・減価償却費の計上 4億87百万円

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、14億42百万円増加しました。

＜主な要因＞

- ・貸付金の回収による収入 21億60百万円
- ・固定資産の取得 ▲5億48百万円
- ・貸付による支出 ▲2億25百万円

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、8億70百万円減少しました。

＜主な要因＞

- ・長期借入金の返済 ▲4億57百万円
- ・連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出 ▲2億70百万円

<本資料取扱のご注意>

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料の作成は、正確性を期すために慎重に行っておりますが、正確性・完全性を保証するものではありません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は当社の公表している将来見通しとは大きく異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社ヴィンクス
企画本部 経営企画部
e-mail : ir@vinx.co.jp